

株主通信

第1期中間期

平成20年4月1日～平成20年9月30日

ISETAN MITSUKOSHI HOLDINGS

葡萄 *ebizome*



三越伊勢丹ホールディングス

グループ企業理念

「三越伊勢丹グループ企業理念」は、三越、伊勢丹の両社が、長い歴史と伝統の中で培った「企業理念」を不変の価値観として継承するとともに、経営統合を契機に、さらに発展・進化すべき方向を表しています。

「三越伊勢丹グループ企業理念」は、「グループ理念」「グループビジョン」「グループスローガン」の3つから構成され、「グループ理念」では三越伊勢丹グループのステークホルダーに対する基本姿勢を、「グループビジョン」では三越伊勢丹グループの目指すべき方向を、そして「グループスローガン」ではこれらの核心をスローガンとして内外に宣言しております。

グループ理念

真摯に、しなやかに、力強く、向きあいます。

- お客さま一人ひとりと向きあいます。 ご要望とご期待に感動レベルのおもてなしでお応えします。
- 仲間たちと向きあいます。 学びあい、磨きあい、新たな価値を創造します。
- 株主の皆さまと向きあいます。 公正透明な経営を基盤に、誠意と成果でお応えします。
- パートナーの皆さまと向きあいます。 顧客満足を合言葉に、最良の関係を築きます。
- 地域、社会、地球と向きあいます。 ありがたい未来の実現に向けて貢献します。

将来にわたり、かけがえのない信頼関係を築いていきます。

グループビジョン

お客さまの生活のあらゆる場面でお役に立つことが、私たちの喜びであり、誇りです。

- おもてなしの「満足度」で世界随一 (感動)
- サービス、商品、店舗の「質」で世界随一 (上質)
- 新たな価値の「提供力」で世界随一 (創造)
- 価値をつなぐ「ネットワーク力」で世界随一 (連携)
- たゆまぬ「革新力」で世界随一 (変革)

新鮮な感動と上質なサービスの提供により、世界随一の小売サービス業をめざしていきます。

グループスローガン

向きあって、その先へ。

目次

グループ企業理念.....	1
ごあいさつ.....	2
三越伊勢丹ホールディングスの概要.....	3
三越伊勢丹グループの目指す方向.....	5
当中間期の概況.....	7
連結財務諸表.....	13
店舗のご案内.....	16
株主メモ.....	17

※本「株主通信」では、第2四半期累計期間を中間期とする等の表記をしております。

三越伊勢丹ホールディングスのロゴマークについて



三越伊勢丹ホールディングス

三越、伊勢丹の頭文字「M」と「I」をモチーフにしながら「向きあう」を表現した三越伊勢丹ホールディングスのシンボルマークです。3人の人が肩を組んでいるようにも見える「M」と「I」に、お客さま、仲間たち、パートナー、株主、そして社会・地域と、真摯に、しなやかに、力強く向きあう従業員の姿を託しました。

正方形と長方形を組み合わせたシンプルかつ普遍的な形によって、「向きあう」ことの意味性と同時に、これまでの小売サービス業にない上質感、独自性を表現しています。コーポレートカラーは黒と金。強い意志の表明である「黒」と、日本の伝統色である「金」を合わせることで、両社固有の伝統・文化と高い信頼性を醸しだしています。

形、色とともに、世界に、未来に羽ばたくための、私たちの原点の象徴となっています。



代表取締役会長執行役員
武藤 信一



代表取締役社長執行役員
石塚 邦雄

世界随一の 小売サービス業グループの 実現に向けて

株主の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申しあげます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、平成20年9月30日をもちまして、株式会社三越伊勢丹ホールディングスの第1期中間期（平成20年4月1日～平成20年9月30日）の決算を行いましたので、ここに株主通信をお届けさせていただきます。何卒、ご高覧いただきたくお願い申し上げます。

さて、株式会社三越と株式会社伊勢丹は、平成20年4月1日を期して共同持株会社「株式会社三越伊勢丹ホールディングス」を設立し、新たな一歩を踏み出しました。

このたびの経営統合の目的は、互いの強みを共有するとともに、両社が持つ経営資源を最大限に活用することで、お客さまの満足度を高めていくこととございます。

今後、両社は、ひとつのグループ理念のもと、それぞれのブランドにさらに磨きをかけるとともに、常に上質で新しいライフスタイルを創造し、お客さまにとってなくてはならない存在となることで、「世界随一の小売サービス業グループ」の実現を目指してまいります。

また、三越伊勢丹グループが、持続的・永続的に企業価値を高めていくために、グループ全体の収益力向上に向けた構造改革を速やかに推進してまいります。

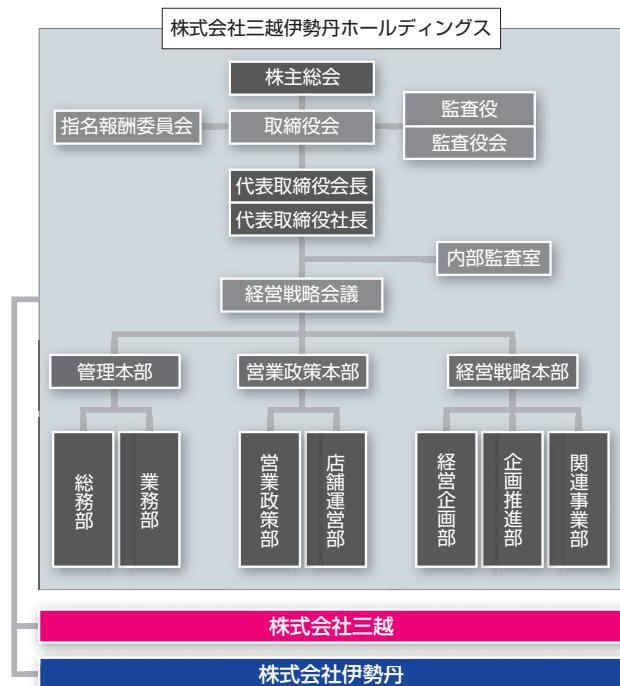
株主の皆様には、この経営統合の成果を着実かつ早期に創出することで、さらに提供価値を高めてまいる所存でございますので、何卒、今後ともご期待くださいますようお願い申し上げます。

三越伊勢丹ホールディングスの概要

会社概要

商号 株式会社 三越伊勢丹ホールディングス
事業内容 百貨店業等の事業を行う子会社およびグループ会社の経営計画・管理ならびにそれに附帯または関連する事業
本社 〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目6番16号
 (事務所所在地)
 〒160-0022 東京都新宿区新宿五丁目16番10号
会社設立 平成20年4月1日
資本金 500億円
URL <http://www.imhds.co.jp>

組織図



役員 (平成20年9月30日現在)

地位	氏名	担当または他の法人等の代表状況等
代表取締役会長執行役員	武藤信一	㈱伊勢丹代表取締役社長執行役員 ㈱三越取締役 (※3)
代表取締役社長執行役員	石塚邦雄	㈱三越代表取締役社長執行役員 ㈱伊勢丹取締役 (※3)
取締役	二橋千裕	㈱伊勢丹代表取締役専務執行役員
取締役	天野公平	㈱三越代表取締役会長
取締役専務執行役員	高田信哉	経営戦略本部長 ㈱伊勢丹取締役専務執行役員
取締役常務執行役員	赤松 憲	管理本部長 ㈱三越取締役
取締役 (※1)	畔柳信雄	㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役社長 ㈱三菱東京UFJ銀行取締役会長
取締役 (※1)	宮村眞平	三井金属鉱業㈱取締役相談役 パンパシフィック・カップー㈱取締役 (※3)
取締役 (※1)	池田守男	㈱資生堂相談役 ㈱小松製作所取締役 (※3) 東京メトロポリタンテレビジョン㈱取締役 (※3) 旭化成㈱取締役 (※3)
常勤監査役	二瓶郁夫	㈱三越監査役 (※4)
常勤監査役	阿部健一	㈱伊勢丹監査役 (※4)
監査役 (※2)	北山禎介	㈱三井住友フィナンシャルグループ取締役社長 ㈱三井住友銀行取締役会長 富士フイルムホールディングス㈱取締役 (※3)
監査役 (※2)	飯島澄雄	東京虎ノ門法律事務所 弁護士 中央大学法科大学院講師 ㈱TKC監査役 (※4) 北川工業㈱監査役 (※4) ㈱商船三井監査役 (※4) ㈱伊勢丹監査役 (※4)

(注記) ※1印は社外取締役であります。
 ※2印は社外監査役であります。
 ※3印は当該株式会社における社外取締役であります。
 ※4印は当該株式会社における社外監査役であります。



コーポレート・ガバナンスと内部統制のしくみ

当社は、監査役会設置会社であります。取締役会の諮問機関として社外取締役を中心に構成する指名報酬委員会を設置することで、ガバナンスの透明性をさらに高めております。また、経営戦略会議を設置することで、経営資源の適切配分や事業計画等に関する審議・検討を行い意思決定の迅速化を図るとともに、執行役員制度を導入し業務執行の効率化を図っております。

内部統制システム構築の基本方針

当社は、世界随一の小売サービス業グループを目指すとともに、健全かつ透明性の高いグループ経営の実現を通じて企業価値の最大化を図るために、業務の適正を確保するための以下の体制の整備に関して基本方針を定めております。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| ① コンプライアンス体制 | ⑥ グループ会社管理体制 |
| ② リスクマネジメント体制 | ⑦ 監査役スタッフに関する事項 |
| ③ 財務報告に係る内部統制体制 | ⑧ 監査役への報告に関する体制 |
| ④ 情報保存管理体制 | ⑨ 監査役監査の実効性確保に関する体制 |
| ⑤ 効率的職務執行体制 | |

●コンプライアンス

「取締役会規程」に則り月一回取締役会を定例開催し、取締役間の意思疎通を図るとともに、相互に業務執行を監督し、法令定款違反行為の未然防止に努めております。また、管理本部にコンプライアンスに関する所管部署・担当を設置し、内部統制・法令遵守体制の維持・向上を図っております。さらに、内部監査部門として独立した専門部署を設置し、他部門と連携しながら業務遂行の適法性・妥当性等を監査しています。その他、内部通報・相談窓口として、「三越伊勢丹グループホットライン」を設置し、グループ内コンプライアンスの視点から、是正措置の実施と再発防止策の策定を行っております。

●リスクマネジメント

事業運営上発生するリスクの特定とその評価・分析を行い、優先的に対応すべきリスクを選定することで、リスクの発現を未然に防止する体制を整えております。また、リスク発生の際に迅速に対応できるように、社内横断的な管理体制を予め整備することで、損害の拡大、二次被害の防止および再発の防止に努めております。

●財務報告に係る内部統制

適正な財務報告を確保するための全社的な方針や手続きを明示するとともに、財務報告の重要な事項に誤りが発生するリスクを低減するための体制を整備・運用してまいります。さらに財務報告に関するモニタリングを行うことで、把握された内部統制上の問題が適時・適切に報告されるための体制を整備してまいります。

会社の株式に関する事項 (平成20年9月30日現在)

発行可能株式総数.....	1,500,000,000株
発行済株式の総数.....	387,850,182株
	<small>(注記) うち自己株式数は、32,218株であります。</small>
株主数.....	147,414名

三越伊勢丹グループの目指す方向

目指すゴールイメージ

常に上質で新しいライフスタイルを創造し、お客さまの生活のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、お客さま一人ひとりにとっての生涯にわたるマイデパートメントストアとなり、高収益で成長し続ける世界随一の小売サービス業グループ

三越伊勢丹グループ3ヶ年計画の概要

百貨店業界は他業種・他業態との競争が年々厳しくなっていることに加え、消費者の購買手段の多様化の影響を受け、市場規模は縮小傾向にあります。こうしたなか、お客さまのご満足の最大化を実現するために、株式会社三越と株式会社伊勢丹は本年4月に経営統合を行いました。しかし、当初の想定をはるかに上まわる外部環境の変化がおきており、当社グループが対応すべき最優先課題は、お客さまのご要望にお応えできる体制を早期かつ確実に構築すべく、基本方針の早期推進、経営資源配分の見直しの強化を行い、平成23年春までにはグループ最適化を完了させることにあります。このたび策定しました「三越伊勢丹グループ3ヶ年計画（平成21年度～平成23年度）」では、基本方針を、①「三越」「伊勢丹」ブランドの明確化とブランド価値の向上 ②店頭における販売員一人ひとりが提供する顧客満足の最大化 ③グループ力を最大限発揮するための営業基盤の統合とし、以下4つの重点戦略を掲げております。

<1>首都圏旗艦3店への集中投資

首都圏旗艦3店（新宿、銀座、日本橋）に集中して大規模投資を行い、「三越」「伊勢丹」ブランドをそれぞれ象徴する各店を磨き上げることで、世界随一のデパートメントストアを構築してまいります。

<2>店舗体制の再構築

セントラルによる地方店舗への支援体制を整備するとともに、地域事業会社化により地域に密着した「私たちの街のマイデパートメントストア」を目指してまいります。また、三越と伊勢丹の店舗が併存するエリアにおいては、両店舗の運営の一体化を進め、2つの店舗・ブランドを最大限活用し、地域のお客さま満足を高めるとともに、後方部門の統合で運営コストの削減を行います。

<3>カード戦略の拡充・強化

カード統合を平成22年春に行い、顧客情報を活用できる環境を整えるとともに、利用範囲・機会を拡大することで収益の柱のひとつへと育ててまいります。

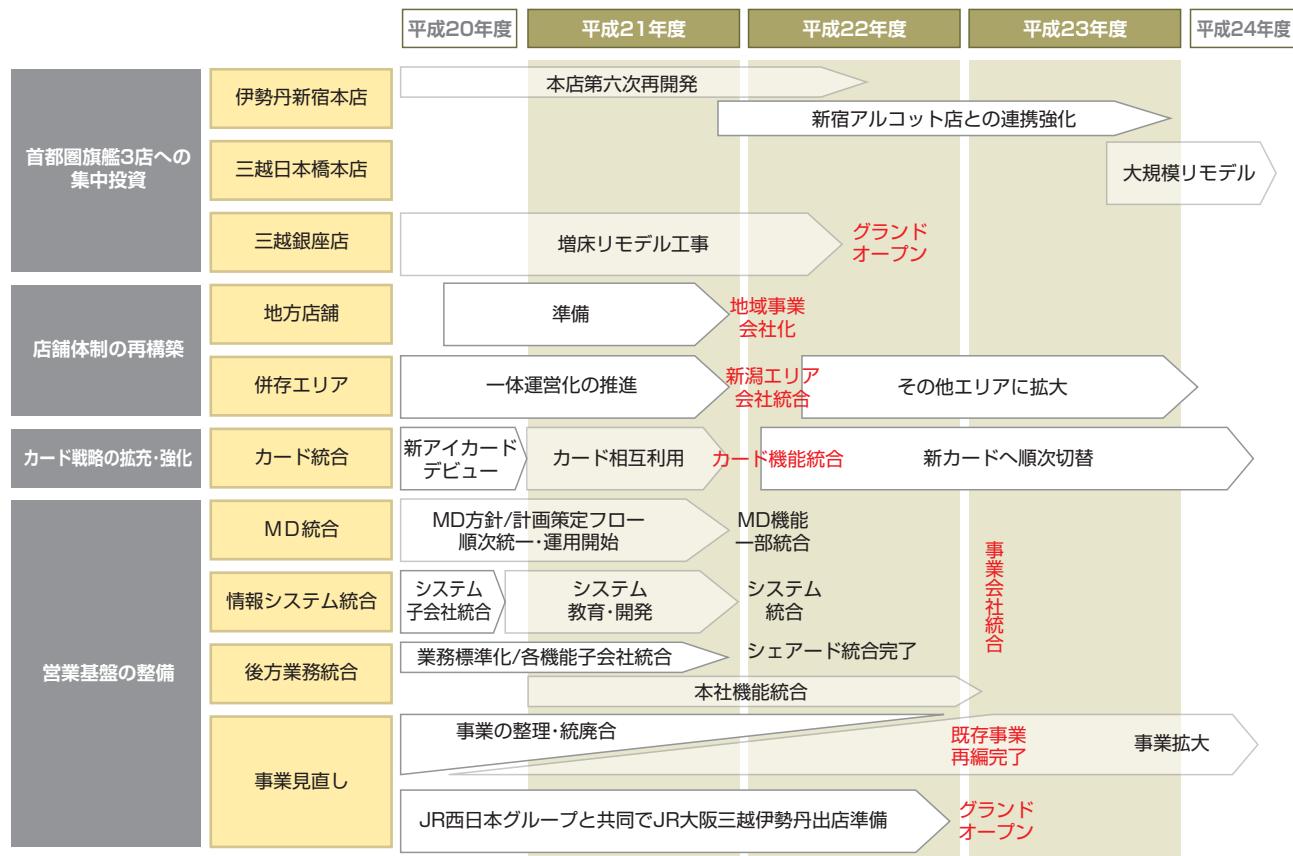
<4>営業基盤の整備

グループインフラの統合を通じ、ブランドや会社の枠を超えてグループの資源を活用できる体制を整備し、コスト削減や営業力の強化を実現してまいります。具体的には、平成22年度にシステムとシェアード機能を、平成23年度には百貨店事業会社をそれぞれ統合する予定です。

なお、既存事業については、お客さまのニーズ・収益性・競争優位性の観点から整理、統廃合を進めてまいります。その中で、今後成長が期待できる通販・WEB事業や中国・アジアでの百貨店事業等については育成・拡大を図ります。



スケジュールの概要



※内容・時期などに関しては、現在想定されているものであり、修正されることがあります。

数値イメージ

連結営業利益

平成23年度 500億円
平成25年度 750億円(営業利益率5%)

投資計画

3ヶ年計画期間合計 約1,600億円

連結有利子負債

平成23年度末 約2,000億円

当社グループの現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその成果

当中間期における日本経済は、世界的な景気減速と原油高等の影響を受けて、輸出や設備投資の伸びが鈍化するなかで、米国発の信用不安の拡大もあり、景気は踊り場から後退へと足取りを弱めながら推移いたしました。

小売業界におきまして、景気不安やコスト高による物価上昇等により消費マインドが冷え込んだことなどから、減収基調に転じる企業も多く見られ、業界全体としては厳しい環境となりました。

このような状況のもとで、株式会社三越伊勢丹ホールディングスは、本年4月1日、株式会社三越と株式会社伊勢丹の共同持株会社として設立されました。

当社グループは、グループ企業理念に掲げる「世界随一の小売サービス業グループ」の実現に向け、「三越・伊勢丹ブランドの価値向上」「店頭における販売員が提供する顧客満足の最大化」および「グループ力を最大限に発揮するための営業基盤の統合」を基本方針として、統合効果を早期に創出すべく先行的な投資を行うことで、営業力の強化と業務効率の向上に向けた基盤整備に取り組みました。

百貨店業

百貨店業では、まず、三越におきまして、コーポレートメッセージの「飾る日も 飾らない日も 三越と」のもと、お客さまの人生の節目を飾る特別な日にも、ささやかな日常の中の一にも、上質な商品とサービスを提供することで、お客さまとの強い信頼関係を築いてまいりました。

日本橋本店では、お客さまの満足度をさらに高めるために、品揃えや販売サービス等の業務フローについて、店全体として一貫性のある施策を組織的に推進すべく、他の支店に先行して、新たな運営モデルの構築に取り組みました。

また、銀座店は、平成22年秋に向けて増床計画を推進しておりますが、完成時の店舗面積は現在の約1.8倍となり、銀座・有楽町地区では最大規模の商業施設に生まれ変わる予定でございます。本計画は、三越と伊勢丹が統合後、はじめて取り組む共同開発プロジェクトでもあり、同店が「新しい価値



〈三越・日本橋本店〉



〈三越・銀座店（完成後のイメージ）〉

を、スタイルとして創造し、時代の扉を開ける店」となるべく、両社の持てるノウハウを最大限に結集することで成功を期してまいります。

他方、伊勢丹におきましては、企業スローガンの「毎日が、あたらしい。ファッションの伊勢丹」を具体的に実践すべく、お客さまの声から生まれた自主企画の「オンリー・アイ」をはじめ、独自の



〈伊勢丹・新宿本店〉



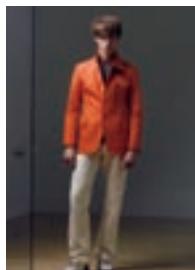
性の高い商品やサービスを、衣・食・住のすべての分野において幅広く提案してまいりました。

新宿本店では、顧客ニーズに応じた商品やサービスをさらに深く追求すべく、本年9月に、本館地下2階に新たなコンセプトフロアとして「ISETAN GIRL」をオープンいたしました。同フロアにおきましては、20歳前後の女子学生を対象に「かわいい」にこだわった商品を生活場面ごとに提案することで、ファッション感度の高い若年層を中心に多数のお客さまにご来店いただき売上高は好調に推移いたしております。

また、伊勢丹の支店では、各店の品揃えや業務オペレーションを標準化した「ユニットショップ」が、地域顧客のニーズを的確に捉えた独自商品の開発に取り組み、引き続き支店の収益力向上に貢献いたしました。

一方、その他のグループ百貨店につきましては、株式会社静岡伊勢丹、株式会社新潟伊勢丹および株式会社岩田屋において、グループ運営体制の基盤整備をさらに推し進め、営業力の強化と業務効率の向上に成果を上げました。

Isetan
Girl



また、株式会社ジェイアール西日本伊勢丹は、さらに顧客の固定化が進むとともに、駅ビル百貨店の特性を活かした諸施策が増収に貢献いたしました。

以上に加え、三越および伊勢丹は、相乗効果を高めるために共同で商品や催事を企画するなど、さまざまな取り組みを行いました。しかしながら、国内において景気に対する先行き不安が急速に深まるなかで、衣料品を中心に減収傾向がより鮮明化し、全体としては厳しい商況が続きました。

次に、海外の百貨店業につきましては、新光三越百貨股份有限公司(台湾)をはじめ、中国、シンガポール、マレーシアを中心に、同地域の経済成長を背景



ONLY
ISETAN

に、全体として売上高を伸ばしております。

なお、ドイツのデュッセルドルフ等の主要都市において、昭和53年の会社設立以来、百貨店業を営んでおりましたドイツ三越GmbHは、当社グループ全体の経営効率改善の観点から、本年7月に、同社を清算することを決定いたしました。また、中国の上海市におきまして、平成5年の会社設立以来、百貨店業を営んでおりました上海錦江伊勢丹有限公司につきましては、店舗賃借期間満了にともない、本年8月に、同社を清算することを決定いたしました。

以上のような結果により、百貨店業の売上高は6,554億円余、営業利益は101億円余となりました。

■ クレジット・金融業

クレジット・金融業におきましては、株式会社伊勢丹アイカードが、「アイカード」の取扱高を減少させましたが、経費削減と業務効率の向上に努めるとともに、資産運用や相続に関する新たなサービスを開始するなど、皆様からご相談いただける範囲をさらに拡大いたしました。

また、先にご案内の通り、同社はビザ・インターナショナルより同ブランドの発行権を取得しておりますが、本年11月から、新たな特典・サービスとともにご利用範囲が大幅に拡大した「VISA」付「新アイカード」を発行いたしました。

以上のような状況のもと、クレジット・金融業の売上高は73億円余、営業利益は12億円余となりました。



■ 小売・専門店業

小売・専門店業におきましては、スーパーマーケット業を営む株式会社クイーンズ伊勢丹が、本年4月に「東陽町店」を、また、本年10月に「大宮店」をそれぞれ開店し、「食の安心・安全」や健康を重視した質の高い品揃えを提供することで地域顧客の皆様にご好評を博しております。

以上のような状況のもと、小売・専門店業の売上高は316億円余、営業損失は1億円余となりました。



〈クイーンズ伊勢丹・東陽町店〉

■ その他事業

その他事業におきましては、株式会社エム・ロジスティクス・ソリューションズや株式会社伊勢丹ビジネスサポート等の営業支援機能を担うグループ会社が、統合効果を早期に創出すべく、生産性の高い業務基盤の構築に向けて、新たな取り組みをスタートさせました。

その結果、その他事業の売上高は742億円余、営業利益は7億円余となりました。

以上のような結果により、当中間期の連結決算につきましては、売上高は7,054億円余、営業利益は112億円余、経常利益は192億円余、中間純利益は121億円余となりました。

なお、平成22年春に予定しております三越と伊勢丹のシステム統合に向けて、両社のシステム子会社の再編に取り組んでおりますが、株式会社イセタン・データー・センターは、本年7月に、その商号を株式会社三越伊勢丹システム・ソリューションズ（以下、「IMS」という。）に改め、同社にグループのシステム関連事業・資産を集約いたしました。

また、大阪駅新北ビルへの百貨店の出店につきましては、三越が平成17年10月に出店を表明して以来、同社が単独で準備を進めておりましたが、その後当社グループが設立されたこともあり、本事業の成功を期するためには、当社グループと西日本旅客鉄道株式会社が総力を結集すべきとの認識に至りました。その結果、本年4月、本事業の運営主体は、三越に代えて、西日本旅客鉄道株式会社の連結子会社で伊勢丹の持分法適用関連会社でもある株式会社ジェイアール西日本伊勢丹（以下、「WJRI」という。）とすることといたしました。

なお、本年10月1日付で、IMSおよびWJRIに係る経営管理および営業支援業務を、会社分割により当社が伊勢丹より承継し、両社を当社の直接出資会社とすることで、グループ内の経営資源の最適化が迅速に図れる体制を整えました。

また、当該会社分割に先立ち、WJRIは、伊勢丹に対して60億円の第三者割当増資を実施しておりますので、当該会社分割後の当社の同社に対する出資比率は40%となりました。



〈大阪駅新北ビル（完成後のイメージ）〉

(2) 対処すべき課題

さて、今後の経済環境につきましては、世界的な金融市場の混乱が最小限にとどまることが望まれますが、さらに問題が深刻化する恐れもあり、しばらくは予断を許さない状況が続くと思われま

すが、小売業界におきましては、雇用・所得環境に目立った改善が期待しにくいなか、個人消費は引き続き厳しい状況で推移すると思われ、企業の生き残りをかけた構造改革への取り組みが本格化するものと思われま

す。このような状況のもとで当社グループは、常にお客さまと向きあい、一人ひとりのお客さまのご満足の最大化を図ることで、お客さまとの信頼関係を深めてまいります。また、お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、お客さまにとってなくてはならない「マイデパートメントストア」の実現を目指してまいります。

また、コーポレート・ガバナンスにつきましては、客観性・透明性の高い経営機構の構築と実効的な内部統制システムの整備に取り組むことで、企業価値向上に向けた基盤づくりに努めてまいります。

なお、本年9月に発表させていただきましたように、三越池袋店と三越鹿児島店につきましては来年5月6日（予定）に、三越武蔵村山店および三越名取店ならびに三越鎌倉と三越盛岡の小型売店2店につきましては来年3月1日（予定）に、それぞれ営業を終了することとし、また、併せて、三越池袋店に係る固定資産を譲渡することを決定いたしました。

当社グループは、平成25年度の連結営業利益750億円（営業利益率5%）の達成を目指し、収益力の向上と財務基盤の強化に向けた諸施策に取り組んでおりますが、経済環境が急速に変化するなか、各店の業績や将来性等を踏まえると、一段の構造改革を急ぐべきとの認識に至り、今回の決定を行った次第でございます。

株主様には、当社グループが持続的・永続的に企業価値の向上を図れる盤石な経営基盤を早期に築くことで、さらに提供価値を高めてまいることができると考えております。

ここに、皆様の日頃のご支援とご愛顧に対しまして、深く感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

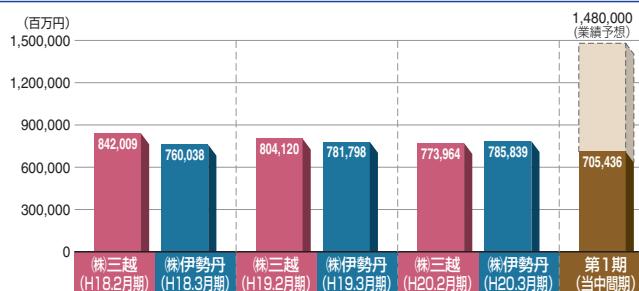


(3) 財産および損益の状況の推移

●連結売上高

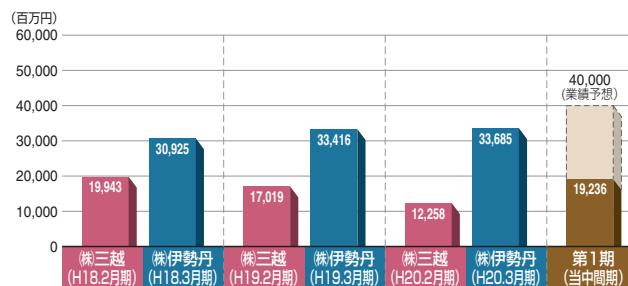
国内における景気の減速感が一段と強まるなかで、中核となる国内の百貨店業におきましては、前年同期と比較して減収基調が鮮明となりました。他方、海外の百貨店業では当該地域の経済成長を背景に全体として増収を維持するとともに、スーパーマーケット業の株式会社クイーンズ伊勢丹が新たに店舗を増やしたことなどで増収となりました。

その結果、当中間期の売上高は705,436百万円となりました。



●連結経常利益

売上総利益は197,658百万円となり、その額より販売費及び一般管理費186,436百万円を控除いたしました結果、営業利益は11,221百万円となりました。また、負ののれん償却額6,617百万円、持分法による投資利益3,296百万円などの営業外収益13,439百万円を計上する一方、営業外費用として5,424百万円を計上いたしました結果、当中間期の経常利益は19,236百万円となりました。



●連結純利益

特別利益として54百万円を計上する一方で、関係会社整理損1,501百万円、たな卸資産評価損1,494百万円、投資有価証券評価損1,034百万円などの特別損失4,915百万円を計上いたしました結果、税金等調整前中間純利益は14,374百万円となりました。また、法人税等の税金費用、少数株主利益を計上いたしました結果、当中間純利益は12,198百万円となりました。



連結	株三越 (H18.2月期)	株伊勢丹 (H18.3月期)	株三越 (H19.2月期)	株伊勢丹 (H19.3月期)	株三越 (H20.2月期)	株伊勢丹 (H20.3月期)	第1期 (当中間期)
売上高 (百万円)	842,009	760,038	804,120	781,798	773,964	785,839	705,436
営業利益 (百万円)	15,272	30,061	12,617	32,252	8,455	33,417	11,221
経常利益 (百万円)	19,943	30,925	17,019	33,416	12,258	33,685	19,236
中間(当期)純利益 (百万円)	9,088	18,710	12,936	18,291	4,427	13,760	12,198
1株当たりの中間(当期)純利益 (円)	18.24	83.23	26.45	82.43	8.99	62.49	31.45
純資産 (百万円)	140,018	194,789	162,840	213,194	159,233	218,716	515,015
総資産 (百万円)	597,349	493,553	577,672	474,895	570,727	466,542	1,392,704

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間連結会計期間末 (平成20年9月30日現在)
資産の部	
流動資産	270,380
現金及び預金	48,056
受取手形及び売掛金	105,164
有価証券	512
商品	67,523
製品	990
原材料	495
仕掛品	150
その他	50,671
貸倒引当金	△3,184
固定資産	1,122,324
有形固定資産	792,090
建物及び構築物（純額）	201,653
土地	567,549
その他（純額）	22,887
無形固定資産	74,965
のれん	318
その他	74,646
投資その他の資産	255,268
投資有価証券	116,530
その他	140,723
貸倒引当金	△1,985
資産合計	1,392,704

科目	当中間連結会計期間末 (平成20年9月30日現在)
負債の部	
流動負債	513,387
支払手形及び買掛金	101,281
短期借入金	174,566
未払法人税等	3,223
引当金	18,989
その他	215,327
固定負債	364,300
長期借入金	33,300
繰延税金負債	194,898
退職給付引当金	64,371
引当金	466
負ののれん	59,554
その他	11,710
負債合計	877,688
純資産の部	
株主資本	495,041
資本金	50,000
資本剰余金	319,114
利益剰余金	125,991
自己株式	△65
評価・換算差額等	4,167
その他有価証券評価差額金	4,005
繰延ヘッジ損益	△11
為替換算調整勘定	172
新株予約権	755
少数株主持分	15,051
純資産合計	515,015
負債純資産合計	1,392,704

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT 連結貸借対照表

●総資産は1,392,704百万円となり、このうち流動資産は270,380百万円、固定資産は1,122,324百万円となりました。また、流動資産のうち現金及び預金は48,056百万円、受取手形及び売掛金は105,164百万円、商品は67,523百万円となりました。さらに、固定資産のうち有形固定資産は792,090百万円、無形固定資産は74,965百万円、投資その他の資産は255,268百万円となりました。

●負債合計は877,688百万円となり、このうち流動負債は513,387百万円、固定負債は364,300百万円となりました。負債の主な内容は、有利子負債237,866百万円、長期繰延税金負債194,898百万円、支払手形及び買掛金101,281百万円、退職給付引当金64,371百万円、負ののれん59,554百万円であります。

●純資産は515,015百万円となりました。



連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間連結会計期間
	自 平成20年4月 1日 至 平成20年9月30日
売上高	705,436
売上原価	507,778
売上総利益	197,658
販売費及び一般管理費	186,436
営業利益	11,221
営業外収益	13,439
受取利息	457
受取配当金	701
負ののれん償却額	6,617
持分法による投資利益	3,296
その他	2,365
営業外費用	5,424
支払利息	1,568
固定資産除却損	1,244
その他	2,611
経常利益	19,236
特別利益	54
投資有価証券売却益	54
特別損失	4,915
たな卸資産評価損	1,494
固定資産処分損	372
投資有価証券評価損	1,034
関係会社整理損	1,501
構造改革損失	512
税金等調整前中間純利益	14,374
法人税、住民税及び事業税	1,679
法人税等合計	1,679
少数株主利益	497
中間純利益	12,198

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当中間連結会計期間
	自 平成20年4月 1日 至 平成20年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,829
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,132
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,088
現金及び現金同等物の増加額	1,492
現金及び現金同等物の期首残高	27,208
現金及び現金同等物の中間期末残高	41,944

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

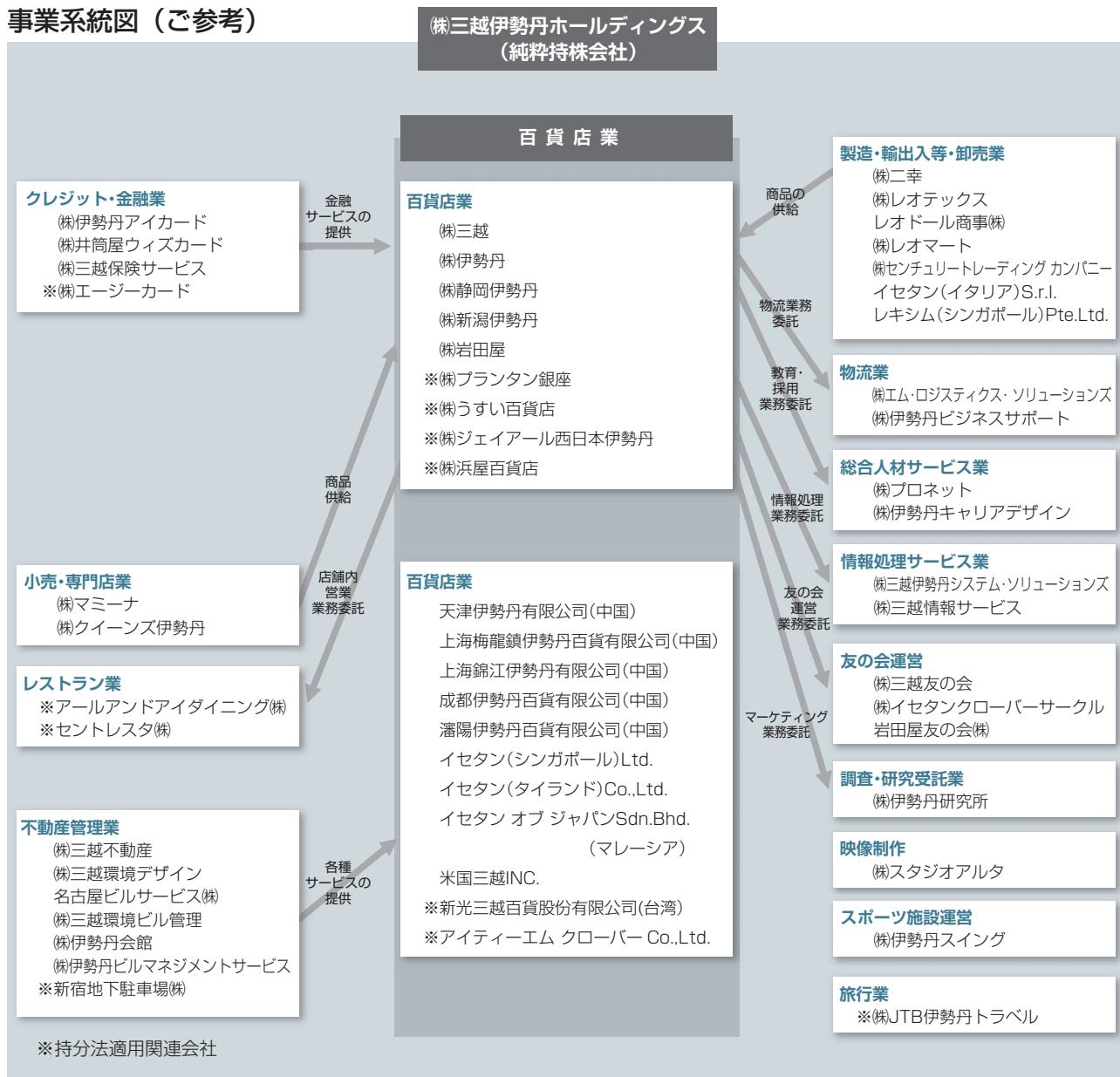
POINT 連結損益計算書

- 売上高705,436百万円から売上原価507,778百万円を控除いたしました売上総利益は197,658百万円となり、売上総利益率は28.0%となりました。
- 販売費及び一般管理費として186,436百万円を計上いたしました結果、営業利益は11,221百万円となりました。また、営業外収支は8,014百万円の利益超過となり、経常利益は19,236百万円となりました。
- 経常利益に特別利益、特別損失を加味し、法人税等の税金費用、少数株主利益を計上いたしました結果、中間純利益は12,198百万円となりました。

POINT 連結キャッシュ・フロー計算書

- キャッシュ・フローにつきましては、営業活動によるキャッシュ・フローは4,829百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローは、15,132百万円の支出となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、12,088百万円の収入となりました。この結果、現金及び現金同等物の中間期末残高は、41,944百万円となりました。

事業系統図（ご参考）





三越

●国内の主要店舗

日本橋本店
〒103-8001
東京都中央区日本橋室町1-4-1
TEL.03-3241-3311 (代表)

銀座店
〒104-8212
東京都中央区銀座4-6-16
TEL.03-3562-1111 (代表)

池袋店
〒170-8439
東京都豊島区東池袋1-5-7
TEL.03-3987-1111 (代表)

恵比寿店
〒150-6090
東京都渋谷区恵比寿4-20-7
TEL.03-5423-1111 (代表)

新宿アルコット店
〒160-8455
東京都新宿区新宿3-29-1
TEL.03-3354-1111 (代表)

多摩センター店
〒206-8543
東京都多摩市落合1-46-1
TEL.042-357-7111 (代表)

武蔵村山店
〒208-0022
東京都武蔵村山市榎1-1-3
TEL.042-516-1111 (代表)

千葉店
〒260-8631
千葉県千葉市中央区富士見2-6-1
TEL.043-224-3131 (代表)

札幌店
〒060-8666
北海道札幌市中央区南1条西3-8
TEL.011-271-3311 (代表)

仙台店
〒980-8543
宮城県仙台市青葉区一番町4-8-15
TEL.022-225-7111 (代表)

●海外の主要店舗

イギリス
ロンドン三越 (ショッピング・レストラン)

フランス
パリ三越
三越エトワール (日仏文化交流空間)

イタリア
ローマ三越

スペイン
マドリッド三越

ドイツ
デュッセルドルフ三越
フランクフルト三越
ミュンヘン三越

アメリカ
オランダ三越 (ショッピング・レストラン)

名取店
〒981-1224
宮城県名取市増田字関下460
TEL.022-383-7111 (代表)

新潟店
〒951-8530
新潟県新潟市中央区西堀通五番町866
TEL.025-227-1111 (代表)

名古屋栄店
〒460-8669
愛知県名古屋市中区栄3-5-1
TEL.052-252-1111 (代表)

ラシック店
〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄3-6-1
TEL.052-259-6666 (代表)

星ヶ丘店
〒464-8661
愛知県名古屋市中区千種区星ヶ丘元町14-14
TEL.052-783-1111 (代表)

広島店
〒730-8545
広島県広島市中区胡町5-1
TEL.082-242-3111 (代表)

高松店
〒760-8639
香川県高松市内町7-1
TEL.087-851-5151 (代表)

松山店
〒790-8532
愛媛県松山市一番町3-1-1
TEL.089-945-3111 (代表)

福岡店
〒810-8544
福岡県福岡市中央区天神2-1-1
TEL.092-724-3111 (代表)

鹿児島店
〒892-0826
鹿児島県鹿児島市呉服町6-5
TEL.099-225-2111 (代表)

台湾
新光三越
信義新天地A11館
信義新天地A8館
信義新天地A9館
信義新天地A4館
南西店本館
南西店二館
南西店三館
站前店
天母店
桃園大有店
桃園站前店
新竹店
台中店
嘉義店
台南中山店
台南新天地
高雄店

中国
花園飯店 (上海) 三越

伊勢丹

●国内の主要店舗

新宿本店
〒160-0022
東京都新宿区新宿3-14-1
TEL.03-3352-1111 (代表)

立川店
〒190-0012
東京都立川市曙町2-5-1
TEL.042-525-1111 (代表)

吉祥寺店
〒180-0004
東京都武蔵野市吉祥寺本町1-11-5
TEL.0422-2-1111 (代表)

松戸店
〒271-0092
千葉県松戸市松戸1307-1
TEL.047-364-1111 (代表)

浦和店
〒330-0063
埼玉県さいたま市浦和区高砂1-15-1
TEL.048-834-1111 (代表)

相模原店
〒228-0803
神奈川県相模原市相模大野4-4-3
TEL.042-740-1111 (代表)

●海外の主要店舗

シンガポール
シンガポール伊勢丹・スコッツ店
シンガポール伊勢丹・オーチャード店
シンガポール伊勢丹・カトン店
シンガポール伊勢丹・タンピネス店

マレーシア
クアラルンプール伊勢丹・LOT 10店
クアラルンプール伊勢丹・KLCC店
クアラルンプール伊勢丹・THE GARDENS店

府中店
〒183-0023
東京都府中市宮町1-41-2
TEL.042-334-1111 (代表)

静岡伊勢丹
〒420-0031
静岡県静岡市葵区呉服町1-7
TEL.054-251-2211 (代表)

新潟伊勢丹
〒950-0909
新潟県新潟市中央区八千代1-6-1
TEL.025-242-1111 (代表)

岩田屋
〒810-8680
福岡県福岡市中央区天神2-5-35
TEL.092-721-1111 (代表)

ジェイアール京都伊勢丹
〒600-8555
京都府京都市下京区烏丸通塩小路下路東塩小路町
TEL.075-352-1111 (代表)

タイ
バンコク伊勢丹

中国
上海華亭伊勢丹
上海梅龍鎮伊勢丹
天津伊勢丹
成都伊勢丹
瀋陽伊勢丹

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 (下記ご注意ご参照)
<p>【株式に関するお手続き用紙のご請求について】</p> <p>株式に関するお手続き用紙（届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書等）のご請求につきましては、以下のお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。なお、株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。</p> <p>TEL.0120-244-479 (通話料無料) インターネットアドレス http://www.tr.mufg.jp/daikou/</p>	
上場証券取引所	東京証券取引所
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.imhds.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします)

(ご注意) 株主名簿管理人の「取次所」の定めについて

株券電子化後、株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」は、株券電子化の実施時をもって廃止いたします。

なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

株式会社三越伊勢丹ホールディングスは、設立初年度である平成20年度につきましては、中間配当を行わず、期末に一括して配当を実施する予定でございます。



【平成21年1月5日施行の株券電子化実施に伴うお知らせ】

1. 特別口座について

(1) 特別口座への口座残高の記帳

株券保管振替制度をご利用でない株主様につきましては、ご所有の株式は三菱UFJ信託銀行に開設される特別口座に記録されます（平成21年1月26日（月）に記録される予定です）。なお、特別口座に記録された株式数等のご案内は、平成21年2月中旬頃に、三菱UFJ信託銀行から、お届けのご住所宛にお送りする予定です。

(2) 特別口座に記録された株式に関するお手続き

特別口座に記録された株式に関するお手続き（株主様の口座への振替請求・単元未満株式買取（買増）請求・お届出住所の変更・配当金の振込指定等）につきましては、株券電子化実施後、下記口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）の連絡先にお問合せください。なお、特別口座に記録された株主様のお手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行の全国本支店でお取次ぎいたします。

(3) 特別口座の口座管理機関および連絡先

特別口座の口座管理機関は、当社株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行となります。

口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-232-711（通話料無料）

(4) 特別口座の口座管理機関でのお手続きの受付の開始時期

特別口座に記録された株式についての、株主様の口座への振替請求、単元未満株式買取（買増）請求等の各種ご請求やお届出につきましては、平成21年1月26日（月）以降にお手続きが可能となりますので、ご留意ください。

2. 株券電子化前後における単元未満株式買取・買増のご請求について

株券電子化の前後においては、単元未満株式買取請求ならびに買増請求につきまして、以下のとおりとなりますので、ご留意ください。

(1) 保管振替制度をご利用でない単元未満株式に関するご請求

①単元未満株式買取請求

平成21年1月5日（月）から平成21年1月25日（日）までは、受付をいたしません。

また、平成20年12月25日（木）から12月30日（火）までのご請求受付分につきましては、買取価格はご請求受付日の終値を適用いたしますが、買取代金のお支払いを平成21年1月30日（金）とさせていただきます。

②単元未満株式買増請求

平成20年12月12日（金）から平成21年1月25日（日）までは、受付をいたしません。

(2) 保管振替制度をご利用の単元未満株式に関するご請求

株券電子化実施の前後において、一定期間お取引の証券会社で取次ぎを行わないと承っております。具体的な日程につきましては、証券会社により異なることが考えられますので、お取引の証券会社にお問い合わせください。

3. 株主様のご住所およびお名前のご登録について

株主様のご住所およびお名前の文字に、振替機関（証券保管振替機構）で指定されていない漢字等が含まれている場合には、その全部または一部を振替機関が指定した文字に置き換えのうえ、株主名簿に登録いたします。この場合、株主様にお送りする通知物の宛名は、振替機関が指定した文字となりますのでご了承ください。

<ご参考>

株券電子化に関する詳細につきましては、証券決済制度改革推進センターのホームページに掲載されたQ&A（<http://www.kessaicenter.com/kaikaku/kabuken10aa.pdf>）等をご参照ください。

また、株券電子化に関するご質問・ご相談は、株券電子化なんでも相談窓口（*）株券電子化コールセンター）TEL.0120-77-0915（通話料無料 平日・土曜 / 9：00～17：00）までお問い合わせください。

(*）株券電子化コールセンターは、(株)証券保管振替機構、日本証券業協会、(株)東京証券取引所が共同で運営する株券電子化についての相談窓口です。



三越伊勢丹ホールディングス

本社 ● 〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目6番16号

事務所所在地 ● 〒160-0022 東京都新宿区新宿五丁目16番10号

ホームページアドレス ● <http://www.imhds.co.jp>

証券コード ● 3099

葡萄 *ebizome*

葡萄は現在では「ぶどう」と読むが、昔は「えび」と読んで葡萄葛（えびかずら）をさした。「葡萄葛」は山葡萄の古名で、古代のわが国に自生していた葡萄葛は実が小さく、暗紫色だったといわれる。